



F D NEWS

～FDとは Faculty Development の略で、教員が授業内容・方法を改善させるために行う組織的な取組みの総称です～

contents

page 1

★調査概要

page 2

★教員と学生の満足度の比較

page 3

★開講学部別自習時間の比較
★自習時間と授業満足度との相関

page 4

★授業満足度アンケートの活用方法
★FD委員長からのコメント
★学生満足度チーム座長からのコメント
★時の語り部（最終回）

★平成19年度 後期授業満足度アンケート速報★

ご協力いただいた、「平成19年度後期授業満足度アンケート」の集計結果をご報告します。

調査概要

1 目的

☆学生の授業に対する満足度を把握し、改善点・要望事項を把握する。
☆教員の授業に対する意識を調査し、学生・教員間の意識のギャップを確認する。
⇒今後の授業改善の一助とする

☆ポイント☆

☆教員と学生に対して、同内容のアンケートを同時に実施したよ

☆授業の中盤にアンケートを実施して、結果を早急に教員にフィードバックしたよ

2 対象科目

専任教員の担当授業のうち、最も履修者が多い講義科目を対象とした。ただし、体育科目・リレー方式で開講されている科目・実験/実習/演習など講義以外の科目は除く。

3 方法

記名式マークシート用紙にて、学生・教員共に授業終了前20分間を利用して同時に回答した。

[学生用]

選択式質問20問、記述式質問1問

[教員用]

選択式質問16問、記述式質問1問

4 実施日

平成19年10月
(第5回目の授業日を目安)

5 回収率

アンケートの回収率が高い学部は、授業の出席率も高そうだね。

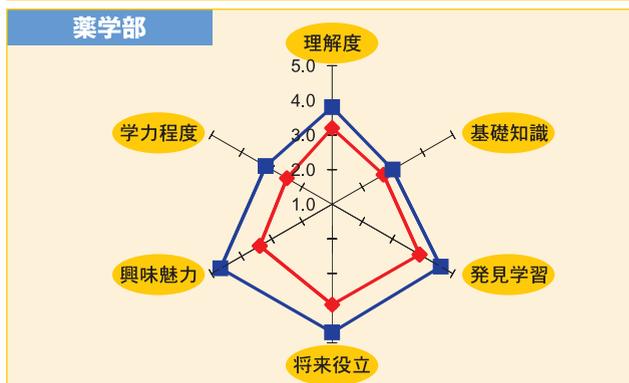
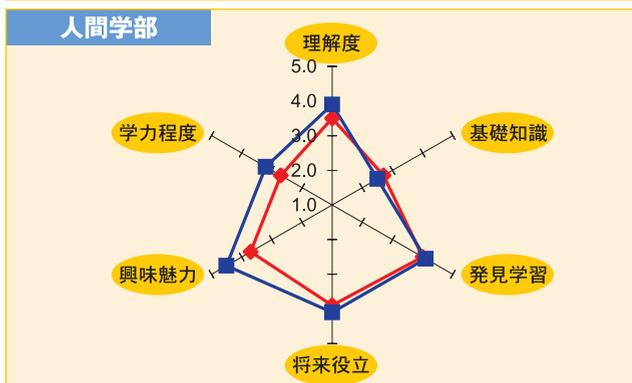
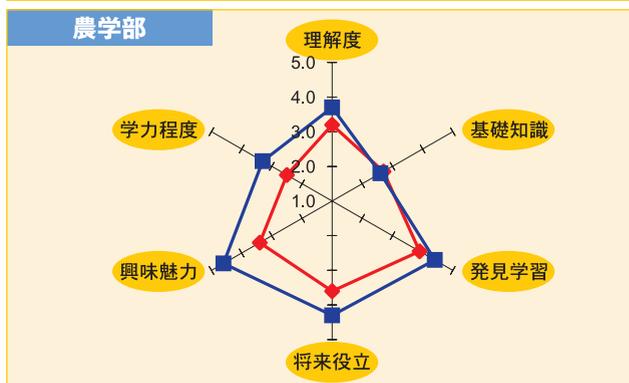
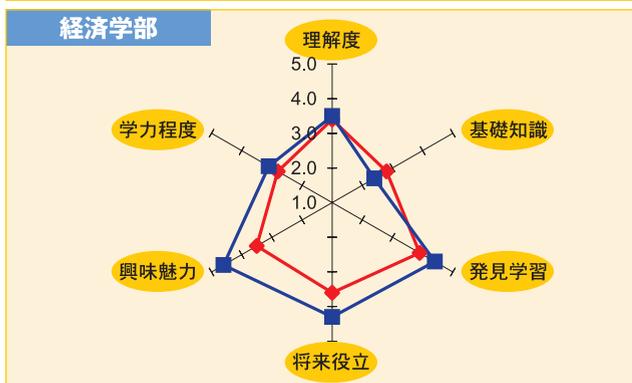
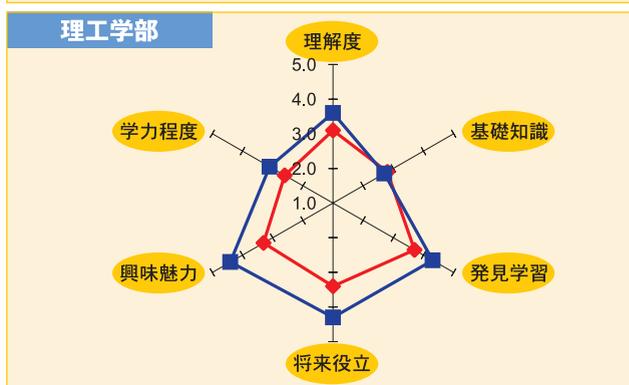
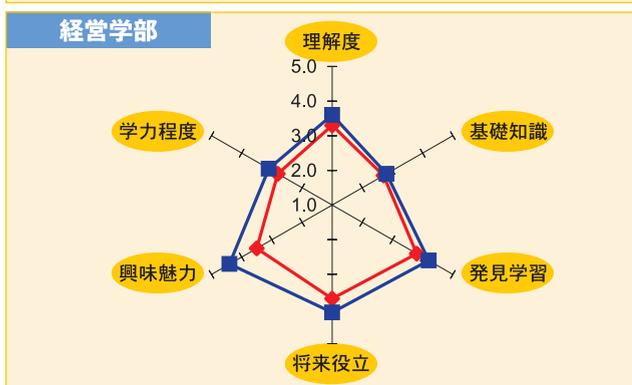
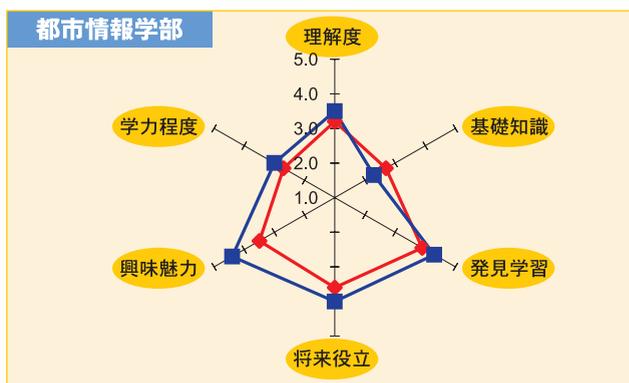
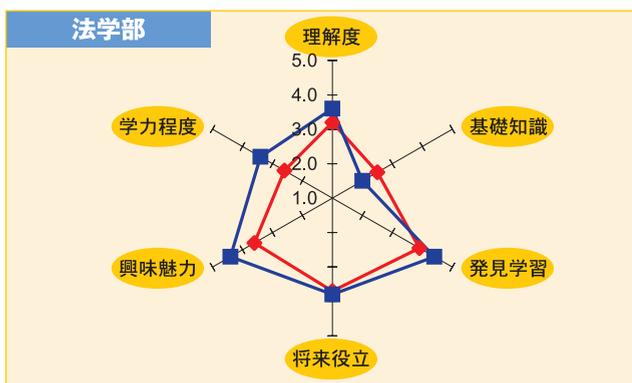
開講学部等	対象者数	アンケート回収数	回収率
法 学 部	6,824	2,718	39.8%
経営学部	4,146	2,152	51.9%
経済学部	4,041	2,038	50.4%
理工学部	13,138	9,689	73.7%
農 学 部	4,021	3,114	77.4%
薬 学 部	5,113	4,600	90.0%
都市情報学部	2,641	1,487	56.3%
人間学部	2,332	1,732	74.3%
教職課程	487	366	75.2%
全学共通教育部門	775	469	60.5%
合 計	43,518	28,365	65.2%

教員と学生の満足度の比較

◆ 学生 ◆ 教員

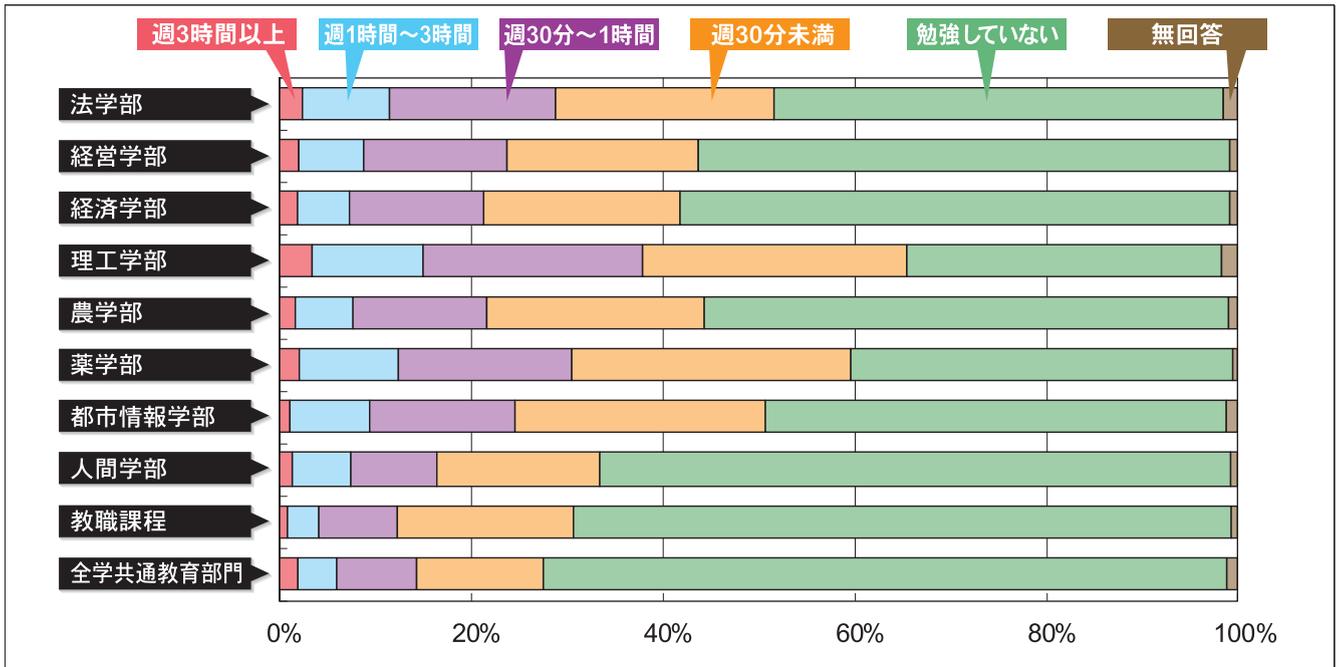
※選択肢の「強くそう思う」に5点、「全くそう思わない」に1点を与えた平均値を示しています。最大5.0、最小1.0で算出されます。

- ◆ 理解度：自分はこの授業が理解できている
- ◆ 基礎知識：自分には基礎的な知識が十分にあると思う
- ◆ 学力程度：自分の学力はどの程度だと思いますか
- ◆ 発見学習：この授業では新しいことを学べている
- ◆ 興味魅力：この授業は内容が興味深く、魅力的である
- ◆ 将来役立：この授業は将来役に立つと思いますか



学生と教員が同じ質問に対してどう回答しているかを比較してみたよ。学生の結果と教員の結果とでは結構ギャップがあるみたいだね。このギャップが生じる原因はなんだろう？学生と教員が共に歩み寄っていくことで、もっと満足度の高い授業になっていくかもしれないね。

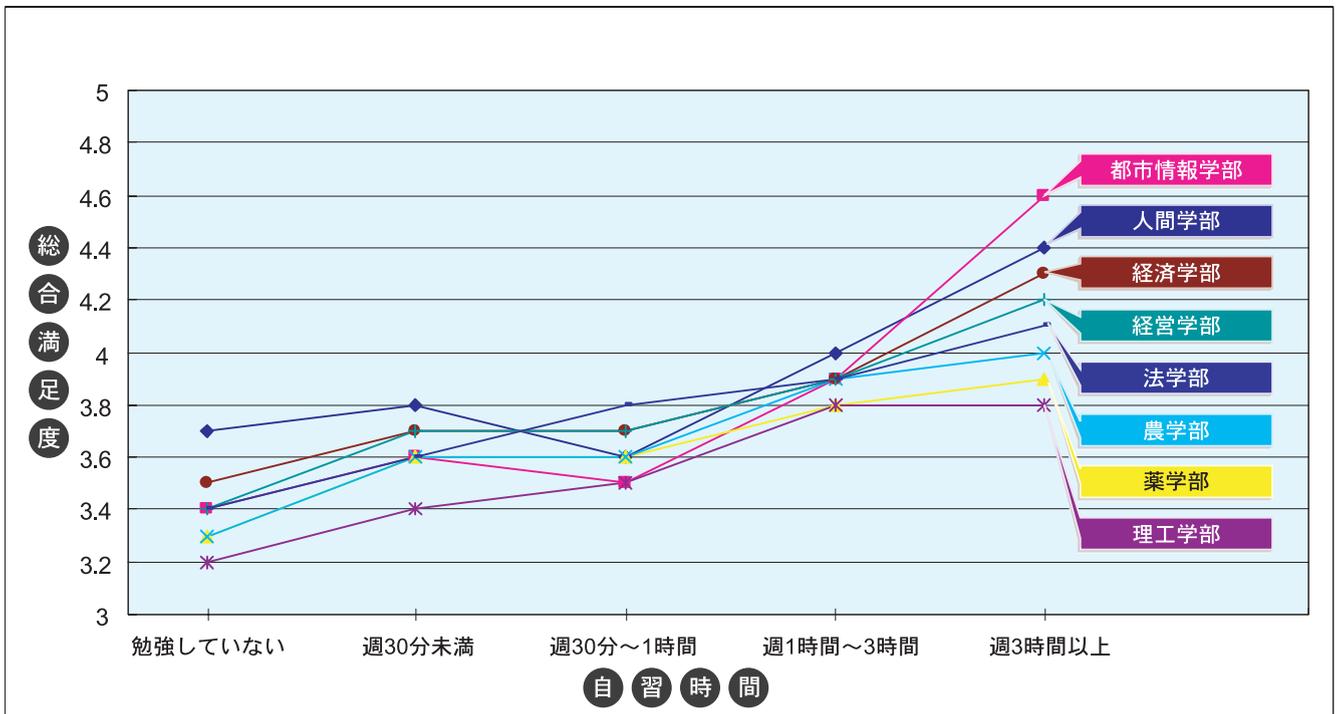
開講学部別自習時間の比較



他の学生の自習時間を見て、「なーんだ、みんな勉強してないじゃん。僕も勉強しなくても大丈夫かな。」と思ったきみ、本当にそうかな？ 次のグラフを見てみよう!!



自習時間と授業満足度との相関



※総合満足度とは、「この授業は総合的に見て満足いくものである。」という設問に対して、選択肢の「強くそう思う」に5点、「全くそう思わない」に1点を与えた平均値です。最大5.0、最小1.0で算出されます。



自習時間の多い学生ほど、授業に対する満足度が高い傾向があるね。予習や復習をすることによって、もっと授業が楽しくなるかもしれないよ☆

授業満足度アンケートの活用方法

☆教員に担当授業のアンケート結果を早急にフィードバック（2007.12.14）

アンケート結果を授業に反映

来年度授業計画（シラバス）作成の参考に

☆アンケート結果を教員および学生に公開（FD NEWS）

☆アンケート結果の分析を含む報告書を作成し公開（2008.3）

名城大学の授業評価アンケートは進化しています。担当の先生方に受講生の声を直接聞いてもらって、授業に一工夫を加えてもらうのがこのアンケートの趣旨です。これは多くの大学で実施されている方法ですが、あまり役立たないという声も耳にするようになりました。本学ではこのアンケート結果を授業改善に生かせるようにと早くから開発を積み重ねてきました。そんな状況の中で、つい最近ですが、学外で催された教育シンポジウムで発表する機会があり、本学のアンケートとフィードバックの工夫を紹介しました。注目はされるだろうとは考えていましたが、会場からは予想以上の反響があり、大変うれしい思いをしました。学内の教職員や学生の皆さんにもこの話をお伝えし、この授業評価アンケートを「名城ならではの授業づくり」にもっと反映していただくことをお願いしたいと思います。

FD委員会 委員長 池田 輝政

学生ならびに教員の皆さん、ご協力どうもありがとうございました。皆さんのお陰をもちまして、速報をここにお届けすることが出来ました。今回はその一部を紹介します。

今回のアンケートは学生と教員の双方の意見を集計しました。授業は学生と教員のコラボレーションです。片方が欠けても成り立ちません。両者の視点を合わせることで、より深く授業が分析できます。

本学では授業満足度アンケートを通し、教員の授業スキルの向上をはかってきました。本アンケートにより教育力のさらなる向上を目指します。

授業改善の新たなシーンに向かい、アンケート手法も進化しております。学生、教員、双方の意見に基づき、多角的な視点から授業を分析しました。

同一の授業について学生と教員がおのおの受けた印象を比較しました。ギャップは少しありますが、良く似た形のレーダーチャートが得られました。“学力程度”、“理解度”、“基礎知識”がちょっと弱いという結果が出ています。

学部別の自習時間では理工学部が首位を走っております。薬学部、法学部、都市情報学部がそれを追う形となっております。

自習時間と授業満足度は、どの学部においても良い相関が見られます。大学は、自主的に学べる場です。大いに勉強して、より大きな満足度を得てください。

学生の皆さん、アンケートの結果は満足できるものでしたか？皆さんがこの値を向上させる原動力となります。期待しております。共に頑張りましょう。

教員の皆さん、お渡ししましたアンケートの結果をもう一度眺めてください。さらなる授業改善をよろしく願いたします。

FD委員会の学生満足度チームでは、アンケートの分析をさらに進めております。例えば、授業毎の学力レベルの分析では、「一こぶ」型、「二こぶ」型などの授業の類型化も進めております。分析結果の報告を今後予定しております。授業の活性化、授業力の向上に役立つことを期待しております。

FD委員会 学生満足度チーム座長 成塚 重弥

時の語り部 ～最終回～

今、さかのぼること、平成12年12月24日開催の大学協議会に於いて学校教育法等の一部改正に伴い本学のFD活動も学則に義務規定として加えることが承認されたのが原点でありスタートでもあります。

委員会では教育内容・方法の改善への手助けとなればとの思いで仕掛けづくりをしまりました。時には、大きな波となり全身に浴びたこと。大きな波となるかなと思ひカッパを着ましたが……等、思い出します。

本学の動きは決して大きくはありませんが、着実に前進していることは確かであり決して停滞はしていません。

今後は、他大学にはない独創的なプログラムの開発と学生諸君参加型の活動を目指し教員と学生への教育へのサービスを図りたいものです。

大学教育開発センター事務部長 内藤 孝行